

# 岩手県における社会福祉史の調査研究

細 田 重 憲

## 1 趣旨、目的

本県の社会福祉活動には誇るべき取組が多くある。しかし個々の歴史的な位置づけや評価だけでなく、福祉分野全体について通史的にこれまでの流れを概観する作業も行われてこなかった。現在、特にも昭和30年代までの資料等の所在確認や、関わった人から直接話を聞くことは困難になりつつある。そこで、岩手の社会福祉の発展経過を整理し、これからの学生や従事者に伝えようとこのプロジェクトに取り組んできた。その目標として、①「岩手県社会福祉史」（仮称 対象期間は主に戦後）編纂（ただし完成には5年程度が必要）、②「岩手県社会福祉史概要年表」の作成、③「岩手県社会福祉史」構成案の作成を掲げている。

## 2 研究の組織、方法

本研究は、対象が広範でかつ長期間に及ぶことから、学部には所属する専門分野を異にする教員と、学外の福祉関係者（公務員、社会福祉協議会・福祉施設職員、学識経験者）20名余により研究会を組織し進めてきた。研究会においては、社会福祉史研究方法論の研鑽、

福祉の先達からのヒアリング調査などを行ってきた。

## 3 これまでの経過と成果

### (1) 研究の基礎となる資料の収集

県、市町村、社会福祉法人等における資料の保管（保存）状況を調査し、周年記念誌等の収集を行った。また、岩手県庁が保管する（保健）福祉行政に関する業務概要等の行政資料及び上記蒐集資料をPDF化し保存した。後記見坊氏所蔵の資料も確認した。

### (2) 岩手の福祉概要年表の作成

県資料、岩手統計年鑑、岩手年鑑等をもとに昭和10年代以降の概要年表を作成している。

### (3) 聞き取り調査

本県のみならず戦後の我が国の社会福祉の指導的立場にあった見坊和雄、長く県福祉行政の中心にいた大橋瑠璃子氏ほかからヒアリングを行い整理している。

### (4) 岩手県社会福祉史（通史）第一次原稿の作成

今年度末までに通史の基幹的部分について第一次原稿を作成し、今後の研究会において個々の評価等について研究、検討を行い、仕上げていく計画である。